

# Relief

リリーフ

2014  
July

vol.16

特集  
第5回連続講座  
「いのち」を考える



公益財団法人

JR西日本あんしん社会財団

JR-West Relief Foundation

# 第5回連続講座『「いのち」を考える』 ～あなたにとって「いのち」とは～



第5回連続講座は、5月16日から6月20日までの6週連続で6名の講師の方に、多様な観点から「いのち」に焦点を当てたご講演をいただきました。

## Profile

**小達 一雄** (おだて かずお) 氏

一般財団法人 夏目雅子ひまわり基金理事長

勇気の中にあなたがいる ～生きること、伝えたいこと～

### 白血病の発症

妹・夏目雅子は映画やドラマで活躍しておりましたが、実は舞台にあこがれていた女優でもありました。あの緊迫感、臨場感が大好きだと。昭和60年の2月、雅子は27歳にして初めて舞台の主演を務めることになりました。ところが、2週間公演のちょうど真ん中ごろに突然体調を崩し、急遽中止を決定せざるを得なくなりました。極度の貧血で、出演を続けると命にかかわる、というのがその理由でした。翌日の記者会見で、報道陣から「白血病ではないのか」と質問が出ましたが、医師は「それは絶対ありません」と断言してくれました。ところが、記者が引き揚げた後、医師から「九十何%の確率で白血病だと思われる」といわれ、それを聞いた我々家族は茫然としてしまいました。

### 闘病生活、そして死

当時、白血病の治療法はまだ確立されておらず、完治は極めて難しいと言われておりました。骨髄移植も認知されておらず、日本にドナーがない状態でしたので、唯一の選択肢は抗がん剤治療でした。医師から「新しい抗がん剤はあるが、認可されたばかりでデータもない。そして、この薬を使うと髪の毛が抜ける」といわれ、まず、従来の薬で治療をはじめましたが、残念ながら効果はありませんでした。最後に新しい薬を使うことになり、苦しい治療ではありましたが、劇的な効果が出て、希望が持てる状態になりました。

しかしその後、風邪を引き、抵抗力がない雅子は肺炎を起こしました。その肺炎が原因で、夏目雅子は昭和60年9月11日、帰らぬ人となってしまいました。

### 夏目雅子ひまわり基金

雅子の相続税の申告をしたときに、医療用にドイツから取り寄せたかつらを医療控除として申請しましたが日本では認められないとのこと。そこで国が認めないならば、雅子の遺産を使い、無償でかつらを貸し出す運動を始めようと決意しました。

病気は克服したが、例えば脱毛などの著しい後遺症が残って、気持ちの面で社会復帰に向くことの出来ない人が100万人を超えそうだ、という新聞記事も目にしました。そして、そういう方々の精神的なケアをしていく基金、夏目雅子ひまわり基金を平成5年12月1日に創設したのです。

### 田中好子との出会い

キャンディーズを解散したばかりの田中好子は、骨肉腫という難病にかかってしまった弟の看病をしていました。しかし、その弟から「看病してくれているお姉ちゃんも好きだけど、テレビに出ているお姉ちゃんももっと好きだ」という言葉を受けて芸能界復帰を決意します。



骨髄バンクドナー登録 啓発ポスター

女優デビュー作となった「虹子の冒険」というドラマで好子は、妹・雅子と出会い、大親友になります。その縁もあって、私と好子は平成3年に結婚することとなりました。

そこから妻・好子と一緒にいろいろな福祉活動を行ってきました。平成3年にスタートした骨髄移植により、白血病からの生還が著しく可能になっているものの、ドナー登録は目標には程遠く、平成6年に「命、いつまでも輝いて…」という啓発ポスターをつくりました。平成8年には、エイズの正しい知識普及のため、若者にもわかりやすく漫画で紹介できないかと考え、漫画家の里中満智子先生にお願いし、「ジュンとヨーコ」という漫画を出版してもらいました。そのとき誰よりも家内が前に出てくれて、日本のエイズ教育が変わってきたともいわれました。

実は、結婚した翌年、好子は乳がんを発症して治療を受けていました。その後、何度か再発し、医師からは命のリミットがあるかないかは何とも言えない、と非常に厳しい宣告をされていたのです。

### 田中好子の死

好子は、いつ再発するか分からない不安の中で、本当によく医師の言うことを聞きながら、大好きな女優の仕事が続けていました。結婚19年目を迎えた秋、十二指腸潰瘍で入院し、翌1月ようやく退院。しかし、2月にまた再入院することに。その時、医師からは突然「このままいくと年内は厳しいかもしれない」と私は家内の命の期限を宣告されました。大震災の直後の3月14日、医師立会いのもと私から好子に告知しました。

そこから好子の病状はどんどん悪くなっていきましたが、「万が一のことがあったらみんなにお礼が言いたい」と言い、また同時に「私は一生懸命病気で闘っているけれども、もしかすると負けてしまうかもしれない。でも、その時は必ず、天国で東日本大震災で被災された方のお役に立ちたい」というメッセージを残すのです。私は我が妻ながら仏様を見ているような気がしました。そして、平成23年4月21日、田中好子は安らかに天に召されてゆきました。

家内と残された日々、ともにいろんなことを語ったことは本当に楽しい思い出です。その時語り合った家内の遺志を形にしたいと思い、田中好子「いつもいっしょだよ」モニュメントをつくらせていただきました。

新たに基金を発足させ、東日本大震災でご家族を亡くされた1,000名のご遺族に対して、今、モニュメントを差し上げる活動をさせていただいています。



いつもいっしょだよ基金 モニュメント



### さいごに

今日、妹・雅子のこと、そして、妻・好子が亡くなって初めて家内のことを皆様にお話しながら強く思ったことがあります。失いたくて、失くす命はないのではないかと。

ただ、残念ながら、自分の力や小さな勇気だけでは守れないものもある。でも、大きな愛や、友情、あるいは皆の勇気を集めれば、それらによって助かる命があるかもしれない。そんな思いを肝に銘じながら「夏目雅子ひまわり基金」、「田中好子「いつもいっしょだよ」基金」を継続し、活動を続けていきます。

2人の女優に対し、皆様からいただいたご厚情に何らかの形で応えるためにも。

## 第5回連続講座を受講された方からいただいたお声

話を聞いて一人の人間として励まされた。誰かのために自分も成長できるといいなと思います。

辛い経験があるからこそ理解できる人の痛み、支えられ今度は周りを支えるという人間のあたたかさ感動した。

「幸せ」は自分で決めるので、決して他人が与えてくれるものではない、ということが一番印象に残りました。

何気ない毎日の中で、予期せぬ死を自身はどう乗り越え、とらえれば生きる力になるのか、いろんな立場で考えることができた。

介護の仕事をしています。一人ひとりの生き方や望まれることを考えて仕事をしようと思いました。

短い人生心豊かに過ごせるよう、色々な生き方を参考にさせていただきます。

## 第6回連続講座『いのち』を考える～あなたにとって『いのち』とは～

平成26年度 秋季に開催する連続講座のご案内です。

様々な分野の講師をお迎えし、多様な観点から『いのち』に焦点を当て、ともに考える連続講座を開催いたします。

(※敬称略)

① 10月 3日(金)	飯田 史彦	元・福島大学経済学部教授、飯田史彦メンタルヘルス・マネジメント研究所所長 社会奉仕施設「光の学校」校長(京都三条御幸町) 「生きがいの創造～科学的スピリチュアル・ケアの倫理と方法」
② 10月10日(金)	池永 昌之	淀川キリスト教病院ホスピス・こどもホスピス病院副院長 ホスピスで『いのち』を考える
③ 10月17日(金)	菅野 典雄	福島県飯館村村長 「お金の世界」から「いのちの世界」へ
④ 10月24日(金)	木村 利人	早稲田大学名誉教授 「いのち」を「幸せ」に生きるために～態度に示す人生を
⑤ 10月31日(金)	鎌田 東二	京都大学こころの未来研究センター教授 「日本文化から<いのち>の問題を考える」
⑥ 11月 7日(金)	高木 慶子	上智大学特任教授、上智大学グリーンケア研究所特任所長 「私にとっての『いのち』は『他者を愛する力』です」

開講期間：平成26年10月3日～平成26年11月7日 毎週金曜日 18:30～20:00(計6回)

会場：毎日新聞ビル オーバルホール(毎日新聞ビル地下1階)

定員：480名(参加無料・要事前申込み) ※応募多数の場合は抽選

### 応募方法

・ホームページ(<http://www.jrw-relief-f.or.jp/>)からご応募ください。

・6週連続して出席いただける方を対象とします。

・締切日：平成26年8月29日(金)

・応募多数の場合は抽選の上、結果をメールでお知らせします。

・受講には、受講証が必要です。(9月14日填発送予定)

・ご応募いただいた個人情報は、当講座の運営及び財団からのお知らせ以外の目的には使用しません。

JR 西日本財団

検索



## 吹田駅救急フェア開催 ～身につけよう救命処置～

5月24日(土)に、JR吹田駅前のサンクス夢広場で救急フェアを開催しました！初夏を感じさせるほど暑い中での開催となりましたが、大勢の方に心肺蘇生法やAEDの使用方法を体験していただくことが出来ました。また、千里救命救急センターの方々・吹田市南消防署の方々・JR社員による、救命処置のデモンストレーションをご覧いただきました。

ご協力いただいた千里救命救急センターの医師大山慶介さん、吹田市南消防署救急第1係原田明子さんのお二人にお話を伺いました。



### 千里救命救急センター 医師 大山 慶介さん

私は済生会千里病院・千里救命救急センターで働いています。普段は重病を患った方に対して救急・集中治療に全力を尽くしています。またICLS(Immediate Cardiac Life Support)チームに所属しています。ICLSとは、医療従事者を対象とした蘇生トレーニングコースです。

救急医療には学生時代から関心があり、地域住民の方を対象に蘇生講習会開催に携わっていました。今回、市民の方、特にお子様に蘇生活動を経験していただくのに、イコちゃんやすいたんと協力して楽しく学んでいただける場で、救命救急の重要性を啓発できるイベント活動とうかがい、この機会に是非との思いから参加しました。



中島医師 大山医師 夏川医師



要救護者役でデモンストレーションに参加する大山医師

心停止をされた方に社会復帰していただくことが、私達の最大目標です。心停止中に脳への血流を維持することが非常に重要になり、そのために必要な手技が心臓マッサージです。現在は胸骨圧迫というようになりました。

意識がなく正常な呼吸をしていない場合は心停止と判断して直ちに胸骨圧迫を開始します。胸の真ん中(胸骨の下1/3)に手を置き、1分間に100回のスピードで5cm以上の深さで行います。

心停止に関しては、病院搬送後の治療と同じくらい搬送前の治療が重要視されており、心停止直後から胸骨圧迫を開始すると救命率が高くなります。ですから何より大事なことは心停止と判断したら胸骨圧迫を開始する勇気です。

目の前で大事な人が倒れた時に何ができるでしょうか？勇気を出して胸骨圧迫をして下さい。

### 吹田市南消防署 救急第1係 原田 明子さん

私たちは、吹田市民の「いのち」を最前線で守っています。それらをアピールする場が限られているところ、今回のフェアの趣旨に吹田市南消防署も賛同し、参加させていただきました。

実際に、JR社員の方々の方々の心肺蘇生やAEDコーナーでの熱心な指導を拝見していると、ものすごく上手に市民の方に案内、説明していると感心いたしました。

市民の方がAEDに慣れ親しんでいただける絶好の機会にご一緒出来て良かったです。これからも、いっしょに「いのち」を守る仲間としてよろしくお願ひします。



# 公募助成団体の活動紹介

平成 26 年度公募助成団体の活動が続々とスタートしています。ゴールデンウィークに福島・宮古で実施された活動の他、5月・6月に実施されたイベントの様子をお伝えします。

## 特定非営利活動法人 たんご村 『人と人が繋がる 『福島・たんごスプリング キャンプ in ふくしま』』

5/3(土)～5(月)の3日間、丹後と福島の親子の交流キャンプが福島県で実施されました。2日目の吾妻高原スカイランドでは、バーベキューやニジマスをつかみ取りなど、小学2年生から中学2年生まで、24名の子供が活発に交流を深めていました。この活動の初回に参加した子供が学生ボランティアとして参加しており、年々広がる絆が感じられました。



## 立命館大学 宮古市ボランティア団体 R7 『宮古MAPでつながろう！ 『宮古の人たち×関西の大学生』』

地元の見聞と外部の見聞、両方を感じる宮古の魅力を盛り込んだ「宮古MAP」製作のため、5/4(日)～6(火)に主な観光地と地元の方々への取材が実施されました。取材した方には、直筆のメッセージと共に写真に写ってもらうなど、親しみやすく工夫されたMAP作りに取り組んでいました。完成後は、インターネットや宮古市街、盛岡駅等で公開される予定です。



## ポーンフリーアート Japan 『福島キッズ アートワークショップ』

震災の被害の影響で様々なストレスを抱える福島の子供たちに対し、ダンスやアートを利用して、自分の思いや考えを表現するきっかけづくりから心身のケアを目指すアートワークショップを開催しています。5/5(月)に開催されたワークショップでは、最初は緊張していた子供たちが体を動かし、様々な動作を輪になって行うことで緊張がほぐれていき、笑顔で楽しそうに動く様子が見られました。



## グリーンサポート ラル大津 『遺族支援(お話と交流会)』

「支え・支えられ生きる」をテーマとした講座を年4回開催。同じような体験をした方の話を聴くことで悲しみや苦しみを分かち合い、自分自身の心の整理が出来る場を提供しています。5/10(土)に開催された講座では、がんで奥様を亡くされた方がご自身の体験を語られ、参加された方々は静かに聴き入っていました。交流会では、アットホームな雰囲気の中で今後の取り組みについて話されていました。



## 特定非営利活動法人 和歌山レスキューサポートバイクネットワーク 『災害に備える』

災害時の情報収集と伝達、救援物資の運搬など、機動性の高いバイクを使用した災害支援活動を行っています。5/18(日)に開催された「田辺市商工フェア」では、これまでの救援実績を紹介したパネルや実際に使用しているバイクの展示のほか、災害時の無線機の利点、バイクの機動性などを紹介する紙芝居を披露しており、地元の方々も興味深そうに見入っていました。



## 特定非営利活動法人 和歌山県木質資源開発機構 『保育園児などに対する 従来にない新しい防災啓発活動』

5/24(土)に和歌山市内の幼稚園で防災訓練が行われ、防災ソングに合わせて歌って踊りながら、地震の時には防災頭巾で頭を守ることなど、被災時に必要な行動を親子で身につけていました。緊急地震速報が発令された際の避難訓練も実施され、ペール缶コンロで沸かしたお湯を使い、アルファ米の試食体験も行われました。



## 特定非営利活動法人 ジャパン・タスクフォース 『ラダー・レスキュー・システム講習会 (梯子を使った救助方法)』

災害・事故現場において「一人でも多く、市民の命を助ける」「防災関係者の命を失わない」を目的とした講習会を開催しています。5/29(木)から行われた講習会では、定員を超える人数が参加し、ニーズの高さが窺えました。現役消防隊員の方が参加されていることや、インストラクターの方も海外研修を受けていることから、非常に高い意識が感じられました。



## 特定非営利活動法人 循環共生社会システム研究所 『「たのしくて、たのしい。」てづくり ミニ太陽光発電ワークショップ』

東日本大震災後に太陽光発電が見直されてきたことをきっかけに、持ち運びが可能なミニ太陽光発電システムを作るワークショップを開催しています。6/22(日)のワークショップに参加された方々は、様々な部品を手に、配線のコツをつかみながらの作業を楽しんでいました。翌月には、システムの便利な使い方について考えるアフターミーティングが実施されます。



## 特定非営利活動法人 つみっくらぶ 『地域と環境を守る 『つみっく』防災スクール』

間伐材から作成され、災害時には更衣室等のプライベート空間としても利用が可能な大型木製ブロック「つみっく」を使用した防災スクールイベントが開かれています。6/29(日)に開催された防災スクールでは、大人と子供たちが力を合わせて「ちびっこシェルター」や「迷路」を作成し、体全体でブロックの積み木遊びを楽しみながら防災意識の向上にも繋がっていました。



# 今後のイベント情報

京丹波町スポーツ少年団  
『双葉町応援隊-KIZUNA-』  
被災地と心を一つに  
日 時：平成 26 年 8 月 11 日 (月) 10:30 ~ 15:30  
場 所：双葉町応急仮設住宅  
(福島県いわき市みなみ台 3 丁目)  
概 要：京丹波で栽培・収穫したジャガイモを、双葉町仮設住宅へ届け、被災者の皆さんと交流します。(要事前申込、参加費 5,000 円)  
問合せ：京丹波町スポーツ少年団  
TEL: 0771-84-0028  
FAX: 0771-84-2100

特定非営利活動法人 尼崎障害者センター  
東北からのお話を聞く集い  
日 時：平成 26 年 8 月 18 日 (月) 14:00 ~ 17:00  
場 所：尼崎市立社会福祉施設身体障害者福祉会館  
(兵庫県尼崎市稲葉荘 3 丁目 9-26)  
概 要：東北障害者作業所の方をお招きし、現在の東北の様子やお気持ちなどをお話いただけます。(申込不要、参加費無料)  
問合せ：尼崎障害者センター  
TEL: 06-6418-2120  
MAIL: amasgscenter@yahoo.co.jp

特定非営利活動法人 プラス・アーツ  
レッドベア  
火育サバイバルキャンプ 2014  
日 時：平成 26 年 8 月 23 日 (土) ~ 24 日 (日)  
場 所：神戸市立地域人材支援センター  
(兵庫県神戸市長田区双葉町 7 丁目)  
概 要：防災時の知識や生き抜く力を、親子で一緒に楽しみながら学べる避難生活体験キャンプです。(要申込、参加費要問合せ)  
問合せ：プラス・アーツ  
FAX: 078-335-1339  
MAIL: red\_bear@plus-arts.net  
HP: http://red-bear.org/

特定非営利活動法人  
循環共生社会システム研究所  
『「たのしくて、たのしい。」  
てづくりミニ太陽光発電ワークショップ  
&アフターミーティング』  
日 時：平成 26 年 8 月 24 日 (日) 13:00 ~ 16:30  
18:00 ~ 20:00  
場 所：循環共生社会システム研究所 京都事務所  
(京都府京都市左京区新丸太町 42 番地)  
概 要：持ち運び可能なミニ太陽光発電システムを作り、その1ヵ月後に使い方を考えるアフターミーティングを実施します。(要申込、参加費/一般 15,000 円)  
問合せ：循環共生社会システム研究所  
FAX: 075-752-1133  
MAIL: ecosoundmail@kiess.org  
HP: http://www.kiess.org

六荘地区地域づくり協議会  
六荘地区防災フェア  
～地域の絆が命をまもる～  
日 時：平成 26 年 9 月 7 日 (日) 8:00 ~ 13:00  
場 所：六荘公民館・駐車場及び近隣地域  
(滋賀県長浜市勝町 490 番地)  
概 要：行政や各種団体との連携により、総合訓練方式を採用した防災フェアを開催します。(申込不要、参加費無料)  
問合せ：六荘地区地域づくり協議会  
TEL: 0749-62-0198  
MAIL: r694053@yahoo.co.jp



## 第2回いのちのリレー大会 参加者募集!!

平成26年11月2日(日)に、京都駅(京都駅ビル駅前広場)において『救急フェスタ in 京都』第2回いのちのリレー大会を開催します。大会では、倒れている人(訓練人形)を発見してから、救急隊員に引継ぐまでの救命処置を、3人1組のチームで協力して行っていただきます。昨年度は、小学校4チーム、高等学校11チーム、計15チームにご参加いただき、会場は大盛況でした。

今年度は、一般の方にも参加の範囲を拡げ、開催いたします。皆様からのご応募をお待ちしております!

### ◎開催日時

平成26年11月2日(日) 13:00～15:00  
(心肺蘇生法・AED体験コーナーは13:00～16:00)



### ◎開催場所

京都駅(京都駅ビル駅前広場)

### ◎応募条件

- ・京都市内の小学校・中学校・高等学校に在学中の児童・生徒および一般(京都市内に在住又は通学・勤務している方)
- ・3人1組(チーム)でご応募ください
- ・応募チーム多数の場合は抽選とさせていただきます

### ◎応募方法

出場申込書(チラシ裏面又はホームページからダウンロード)に必要事項を記入の上、FAX(06-6375-3229)又はメール(info@jrw-relief-f.or.jp)に添付してご応募下さい(参加無料)

### ◎応募締切

平成26年9月10日(水) 必着

### ◎表彰

救命処置の的確さを競っていただき、上位のチームを表彰します

### ◎お問い合わせ

JR西日本あんしん社会財団  
TEL:06-6375-3202(平日10:00～17:00)



昨年の大会の様子

## 安全セミナー「災害と危機管理」の開催

◎日時:平成26年9月4日(木) 13:30～16:30

◎場所:あましんアルカイックホール・オクト(阪神尼崎駅から徒歩5分)

◎講演:「災害リスク・コミュニケーションの新しいかたち」

京都大学防災研究所巨大災害研究センター 教授 <sup>やもり かつや</sup> 矢守 克也 氏

「災害多発時代の安全・安心を実現する」

関西大学社会安全研究センター長・教授

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長 <sup>かわた よしあき</sup> 河田 恵昭 氏

※当セミナーの募集は終了しております



### 編集後記

表紙は「桂(かつら)」の葉です。まるでハートのように見えませんか?こうした身近な植物の他にも、島や湖、岩礁など、ハート型の自然は地球上に沢山見られます。「いのち」そのものは目で見る事が出来ませんが、ハートの形は私たちにいのちをイメージさせてくれます。自然の中のハートを見つけたら、ほんの少し足を止めて、「いのち」のことを考えてみてはいかがでしょうか。(編集者:川股)

〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目4番24号  
TEL:06-6375-3202 FAX:06-6375-3229  
E-mail: info@jrw-relief-f.or.jp  
URL: http://www.jrw-relief-f.or.jp/